政権交代でいのちを守ろう

大阪１２区市民連合街頭宣伝スタート

大阪１２区市民連合は９月１３日、京阪寝屋川市駅前で市民と野党の共闘で政権交代をめざす街頭宣伝行動をスタートさせました。

菅首相の政権投げ出し、安倍・麻生・二階派閥主導の自民党総裁選挙に国民の不満と批判が高まる中、９月８日の市民連合と立憲野党四党の政策合意は自・公政権転換への勇気を与えるものとなりました。

街頭宣伝には宇都宮ゆうこ立憲民主党１２区候補、松尾まさのり日本共産党１２区候補をはじめ新婦人、革新懇の代表が訴えを行いました。

宇都宮候補は「大阪の緊急事態宣言は１年半、コロナ死亡は日本一、自宅死亡も日本一、大阪のコロナ対策失敗、イメージで政治家を選んではいけない。政治を変えるには選挙しかない、みんなで政権を変えよう」と訴えました。

松尾候補は「菅政権はコロナ対策で失敗、安倍・菅政権９年間の強権・政治とカネの問題で追い込まれての退陣。自民党はマスコミ総動員で総裁選、立候補者は安倍・菅政権を推進してきた人ばかり、自公政権の転換を」と訴えました。

新婦人の代表は「暴走政治を国民が追いつめた、絶好のチャンス選挙で変えよう」。革新懇の代表は「コロナの死者は16804人、東日本大震災の死者を超え人災です。命を守るまっとうな政治を」と訴えました。

１２区市民連合は総選挙に向けて、「政権交代でいのちを守ろう」のノボリと横断幕をつくり、１２区各市での宣伝行動を各種団体との共同で行う予定です。